



巻頭言

「キリスト教が説く『愛』」

「イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。

そのことによって、わたしたちは愛を知りました」(ヨハネの手紙一 3章16節)

理事長・学院長・大学長

こむろ なおこ
小室尚子



キリスト教が教える「人間同士が愛し合って生きる」とはどういうことでしょうか。ヨハネの手紙一の3章15節にはとても厳しい言葉があります。「兄弟を憎む者は皆、人殺しです」(兄弟というのは、血のつながった兄弟だけでなく自分の周りの人々のことです)。兄弟を憎む人は、旧約聖書の十戒(出エジプト記20章)にある「あなたがたは殺してはならない」という戒めに違反しているというのです。「いや、私は誰も憎んでいないし、殺していないから、これは私には関係ない教えだ」と多くの人は言うでしょう。ですが、この厳しい言葉によって聖書が問いかけているのは、「憎んでいない、というのなら、ではあなたは本当に心から人を愛していますか?」、ということなのです。

十戒の第六番目に「あなたは殺してはならない」という戒めがあります。この戒めは誰にとってもわかりきったことのようにです。何も特別な戒めではないと思われまます。「殺す」ことを許可しているような戒めはおよそ考えられないからです。そしてまた、ごく特別な例外の人でない限り、誰もがこの戒めは守っているわけですから。だからこの戒めは、戒めとしてあまり切実ではないと思うわけです。けれど果たしてそうでしょうか。むしろ、私達が常に繰り返し聴かなければならない切実な戒めがここにはあるのではないのでしょうか。

私達の現実の社会に目を向けてみましょう。毎日のニュースを見ていけば、この社会が、人間の憎しみ合いや殺人それ自体によってどれほど悩まされているかがわかります。世界を見てみても、私達人間に共通の利己主義は、戦争での暴力を劇的に増大させています。あるいは、脳死問題や中絶問題など生命倫理をめぐる問題もあります。豊かな国がある一方で、飢餓に苦しむ国々があり、すべて命が失われる問題です。こうした現代世界の問題に直面して、私達は、この第六の戒めが、単に法律にふれるような「殺人」を問題にしているのではなく、「命を守り、命を慈しむ事を命じている」ということを、改めて聞き直さなければならないと思うのです。

「殺してはならない」ということは、「すべての命は神のものだ」という聖書の主張を示しています。そして、命の源である神は、

命を慈しみ、命を育むお方だと言っているのです。だから「殺しあう」ことを神はお許しにならないのです。先ほどの問題はどれをとっても私達には解決が容易ではない問題ばかりです。しかし、命を愛し、命を生かす、命の源である神が人間を見捨てずに共におられるということは、問題の解決の道を示しておられるという事ではないでしょうか。「殺してはならない」と言われる神がいる。このことは、私達を絶望から引き上げてくれますし、無気力から立ち上がらせてくれます。もし「殺してはならない」という戒めが無かったらこの世界はどうなっていくのでしょうか。

第六の戒めが繰り返し聞かれなければならないというのは、もう一つ根本的な理由があります。「この人のために何かしないではいられない」という気持ちを聖書は「愛」と呼びます。聖書は、こういう愛を抱かない者は、人を憎む者、つまり人殺しだと言うのです。「そんなこと言われたら、いったい誰が本当に人を愛していると言えるだろうか」そう問いかけたくなります。

ところが、「あなたのために、私にできる最高のことをしなさいではいられない」、そう思って、自分の一番大切な、独り子を十字架にお架けになった方がいるのです。この方こそ私達の命の造り主である神です。

神は独り子イエスをこの私達にお与えになりました。主イエスの十字架は、漠然と「全ての人のため」と言うよりも、私のため、あなたのためなのです。それほどまでに、そんなに大きな犠牲を払うほどまでに神は、私や、あなたを愛されました。そして同じように、私の隣にいるこの人も、あなたの側にいるあの人も神に愛されている人なのです。神が、人間が見失ってしまった真に生きる道を与えようと、愛してください方なのです。キリストの命をもって贖われるほどに大切なものとされた私達一人ひとりです。ですから自分自身を大切にしなければなりません。それと同じように他の人も神に愛されているのですから愛することです。「殺してはいけない」は、この隣人への愛を求めている戒めなのです。

神から私達一人一人に例外なく注がれている愛をしっかりと受けとめて、真実に、他者を愛する者として歩み続けましょう。

キリスト教センター・キリスト教文化研究所と宗教主事

大学宗教主事 **吉松 純**
よし まつ じゅん

金城学院大学（以下、本学）は、本年度より7学部12学科からなる新体制へと移行いたしました。これに伴い、キリスト教文化研究所も新たな機関として再出発することとなりました。そこで本稿では、この機会をお借りして、キリスト教センター、キリスト教文化研究所、そして宗教主事が果たしている役割について、改めてご紹介したいと思います。

キリスト教センターは、本学における諸行事、とりわけ日々の礼拝をはじめ、入学式、学位記授与式（卒業式）を含む各種式典での聖書朗読および祈祷、教授会での祈祷、教職員セミナーや修養会、「キリスト教の時間」、クリスマス礼拝などを、大学のエージェントとして企画・運営しています。

キリスト教文化研究所は、主としてキリスト教に関わる学術研究を担う機関であり、その研究分野は、欧米・アジア・日本のキリスト教史をはじめ、キリスト教美術、音楽、文化など、多岐にわたっています。本年度より、洛雲海（ナグネ）教授を学院宗教総主事として新たに迎え、落合建仁教授（宗教主事）、松谷暉介教授（宗教主事）、吉松純教授（大学宗教主事）の4名が、キリスト教文化研究所所属教員として、新入生必修科目である「キリスト教（1）（2）」

およびいくつかのアイデンティティ科目を主に担当しています。洛雲海先生は組織神学および韓国キリスト教神学、落合先生は日本キリスト教史、松谷先生は中国・香港・台湾のキリスト教史、私吉松はキリスト教美術およびアメリカのキリスト教を専門としています。このほかにも、所員および客員研究員が数名在籍しています。

さて、東海地区において「金城学院」と言えばキリスト教学校、キリスト教学校と言えば金城学院と広く認知されています。それは、本学が1889年（明治22年）、アメリカ南長老教会の宣教師アニー・ランドルフによって創立され、キリスト教をその礎として歩んできたからにほかなりません。本学がキリスト教学校としてどのような取り組みを行っているかについては、授業の中でも語られますが、ぜひ本学のホームページ、『金城学院大学ものがたり』、『金城学院大学とキリスト教』もご覧ください。

本学が目指す教育とは、社会に恥じないプロフェッショナルを育成することにとどまらず、隣人を思いやる心、すなわちキリストの愛——《無私の愛》——を備えた人間を世に送り出すことにあります。2026年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

新宗教主事紹介



略歴：東京生まれの日本人。1993年に東京神学大学大学院を修了（神学修士）。1998年より韓国に留学。延世大学校韓国語学堂を経て、長老会神学大学大学院（PUTS）を修了（神学博士）。2007年よりソウルの大韓イエス教長老会セムナン教会（Saemoonan Presbyterian Church）の協力牧師、2011年から日本基督教団の韓国派遣宣教師となる。2021年3月まで長老会神学大学校（PUTS）教員として組織神学を担当。2026年3月まで東京・奥沢教会牧師、および聖学院大学総合研究所特任教授、同大学政治経済学部特任チャプレン、東京神学大学アジア伝道研究所員を兼務。今年度より本学着任。

2026年4月よりKBSが変わります

KBS（Kinjo Bible Studies）で、お昼休みに少しでも聖書をひらいてみませんか？

これまでKBSは、キリスト教センター所属の学生クラブ活動として行われてきましたが、昨年度の移行期間を経て、2026年度からは、学生・教職員のどなたでも参加できる〈キリスト教センター主催プロジェクト活動〉の一つとして、新しい形でスタートします。申込不要、持ち物不要、途中参加も可能な会です。日時やテーマについては、キリスト教センターのウェブサイトをご覧ください。聖書が初めての方も歓迎です。皆さまのご参加をお待ちしております。



私の教会

日本フリーメソジスト教団 名古屋守山キリスト教会

名古屋守山キリスト教会 牧師

こいたばし ひで ゆき
小坂橋 秀行



私が属する日本フリーメソジスト教団の教会は、現在、国内に26教会あります。

私たちの教会は、フリーメソジスト・アメリカ年会から派遣されたジェイコブ・ディシェイザー宣教師により、67年前にたてられました。最初は、ディシェイザー宣教師の自宅を開放して、集会が行われていました。そのころは、現在の小幡インター西交差点付近に、元米軍将校の住宅があったのだそうです。

ディシェイザー宣教師は、アメリカ軍による「ドーリットル作戦」で、1942年、名古屋を空襲したB25爆撃機の乗組員でした。爆撃後、中国の米英圏の安全地帯に避難することができなかつたため日本軍の捕虜となり、大変な辛酸をなめられたようです。帰国後、神学校に学ばれたディシェイザー宣教師は、今度は神の福音を携えて名古屋にやって来られたのです。



(礼拝風景)

現在の教会は、瀬戸線小幡駅から

市バス緑ヶ丘住宅行『小幡緑地公園西』下車、徒歩2分の所にあります。小幡ヶ原交差点の近く。金城学院大学には、一番近いでしょう。

日曜日10時半から、礼拝を行っています。礼拝後には、『お茶の時間』を持ち、皆さんで楽しいおしゃべりの時をもっています。礼拝出席者は10名くらい。

礼拝前には、9時から『教会学校』の礼拝をしています。今は、幼稚園児から中学生までがメンバーです。

水曜日10時半からは『聖書の学び』、『お祈りの時間』を持っています。



(秋の芋ほり)

年間の教会行事の日（イースター、ペンテコステ、収穫感謝祭、クリスマスなど）には、大人、子供の合同礼拝をおこない、愛餐会をもって交流を深めています。

皆さん、一緒に礼拝いかがです。座席は十分ございます。

学問と信仰

科学は偶然ではなく、秩序

薬学部 教授

の だ やす ひろ
野田 康弘



ローマ人への手紙 1章18～20節

「不義によって真理の働きを妨げる人間のあらゆる不信心と不義に対して、神は天から怒りを現されます。なぜなら、神について知りうる事柄は、彼らにも明らかだからです。神がそれを示されたのです。世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。従って、彼らには弁解の余地がありません。」

科学は偶然ではなく、秩序の上に成り立っています。偶然に見える現象も、詳しく分析すれば法則性が潜んでいることに気づきます。万有引力の法則を発見したアイザック・ニュートンは、その象徴的な存在です。彼がいなければ、スマートフォンやインターネットも存在しなかったでしょう。ニュートンは近代科学の基礎を築くと同時に、深い信仰心をもつキリスト者でした。リンゴが木から落ちるというありふれた現象から法則を見出したのは、「自然を神の創造として理解する」という秩序ある世界観に立っていたからです。

1642年、イングランド東部の村に生まれたニュートンは、イングランド国教会の敬虔な信者であった祖母のもとで育ち、祈りと聖書に親しみました。ケンブリッジ大学在学中、ペスト流行で大学が閉鎖され、故郷で研究を続けることとなります。この間にプリズムによる分光実験や微分積分の基礎理論を確立し、万有引力の着想に至りました。この時期は「奇跡の一年半」と呼ばれ、近代科学の出発点となりました。

ある日、無神論者の友人が太陽系模型を見て「誰が作ったの？」と尋ねると、ニュートンは「誰も作ってないよ。偶然できたんだよ」と冗談めかして答えました。友人が笑うと、彼は静かに言いました。「この小さな模型でさえ設計者がいるのに、宇宙が設計者なしにできたと言えるだろうか。」

自然や生命の不思議を見つめるとき、そこには偶然ではなく秩序が働いています。ニュートンの生き方は、科学と信仰が調和しうることを示しています。科学は秩序を探求する営みであり、その背後にある意味を問い続ける姿勢こそ、私たちが学ぶべきものです。

「キリスト教の時間」に出席して（学生の感想）



日 程：2025年11月5日(水) 4 限目
場 所：アニー・ランドルフ記念講堂
講 師：^{やなぎさわ まさし}柳沢 正史 先生（筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 機構長・教授）

略歴：講師略歴:1960年東京生まれ。1986年日本福音ルーテル岡山教会にて洗礼を受ける。1996年よりノーステキサス日本語バプテスト教会会員。2016年より筑波バプテスト教会会員。筑波大学医学群卒業・大学院修了。1991年31歳で渡米し、24年間にわたりテキサス大学にて研究室を主宰。2012年より現職。2017年筑波大発のスタートアップ企業「S'UIMIN」を起業。血管収縮物質エンドセリン、睡眠制御物質オレキシンを発見し、いずれも医薬の標的として臨床応用されている。米国科学アカデミー正会員。文化功労者。紫綬褒章、朝日賞、慶應医学賞、ブレイクスルー賞など受賞。Pokémon Sleep 監修。メディア出演多数。

演 題：睡眠の謎に挑む ～生命科学研究を生業とするキリスト者の歩み～

聖書箇所：ローマの信徒への手紙 1：20；詩編 127：2

2025年度後期の講演会「キリスト教の時間」では、世界の睡眠研究を牽引する柳沢正史先生をお招きしました。柳沢先生は第一線の科学者であられると同時に、クリスチャンとしての信仰生活を大切にしておられる方でもあります。所属されている日本バプテスト連盟・筑波バプテスト教会では、フルートによる賛美奉仕も長く続けておられます。

講演の中で柳沢先生は、キリスト教に触れた当初、新約聖書『ルカによる福音書』の著者ルカが医師であったことに強い関心を抱き、学問と信仰は両立しうるのではないかと感じた経験を語ってくださいました。また、旧約聖書『詩編』127編2節の「主は愛する者に眠りをお与えになる」という御言葉に触れ、睡眠とは神が私たちに与えてくださる恵みであると語られました。

さらに、新約聖書『ローマの信徒への手紙』1章20節——「世界が造られたときから、目に見えない神の性質、すなわち神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます」——に言及しながら、ご自身の座右の銘である「真実は仮説より奇なり」についてもお話くださいました。柳沢先生によれば、仮説とは人間が頭の中で組み立てた物語にすぎない一方、真実とは「神が創られた摂理」であり、私たちの想像をはるかに超えて大きく、驚くべきものだと思います。だからこそ研究者は、自らの仮説を事実より上位に置くことなく、目の前のデータに誠実であるべきである——その言葉は、学問に向き合う私たち自身への励ましであると同時に、深い戒めともなりました。（松谷暉介）

柳沢先生の講演を通して、睡眠についての考え方が大きく変わりました。これまで私は、睡眠は疲れたからとるもの、時間があれば寝るものというイメージでした。しかし、柳沢先生の話聞いて、睡眠は神が人間に与えた大切な働きであり、私たちの体と心を守るための神秘的な仕組みであるということを知りました。詩篇127編の「主はその愛する者に眠りを与えられる」という言葉のように、睡眠は努力や計画では得られない、神からの恵みであるという考え方に深く共感しました。

また、柳沢先生が科学者でありながら信仰を大切にしている姿にも感動しました。科学と宗教は別のものだと思っていたけれど、科学で分かることの先に神の偉大な力を感じているということを知り、学問にも信仰にも誠実に向き合う姿勢の大切さを学びました。これからは、自分の学びや生活の中でも、与えられた時間を大切に心と体を休める睡眠をおろそかにしないように意識していきたいと思いました。

看護学部看護学科 1年（当時） ^{よこいりの}横井凜希

聖書における「睡眠」や「真実」について学びました。詩編127篇では、神は人間がただ働くだけでなく、しっかり休むことを望んでいるという考えが示されており、「よく眠ることも神からの祝福である」という視点が印象的でした。現代は忙しさが美德とされがちですが、休息も大切な時間であると改めて感じました。また、パウロの説教中に人が眠ってしまったという出来事から、人間はどんな状況でも弱さを抱える存在であることを思いました。さらに「真実は仮説よりも奇なり」という言葉から、神の働きは人の想像を超えるという考えに触れ、物事を一面だけで判断しない姿勢の重要性を学びました。

薬学部薬学科 1年（当時） ^{おおさきはるみ}大崎遥美



ウェブメディア「クリスチャン・プレス」による
柳沢正史先生への独占インタビュー（2018年）

<https://christianpress.jp/yanagisawa-masashi-interview-1/>

礼拝説教要旨

秋の伝道週間（ミッション・ウィーク）
2025年10月30日(木) 朝の礼拝

「見えないものに目を向けて」

文学部音楽芸術学科3年 こ ばやし 小林 ゆい 結

「私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目をとめます」（コリント人への手紙 第二 4章18節）

この箇所は、私が中学一年生の時に洗礼を受けるきっかけとなった箇所です。

私はクリスチャンホームに生まれ、母のお腹の中にいる時から賛美歌を聴いて育ちました。

教会に行くこと、礼拝をすることは、当たり前で中学一年生の時、洗礼を受けました。

しかし中学・高校時代は部活動中心の生活、同年代の仲間が少ないことから、教会に行きづらさを感じることもありました。

でも、そんな私を教会は見放すことなく、教団のキャンプに送り出してくれました。そのような場に送り出された教会の祈りと支えが、今振り返ると本当にありがたかったです。

大学進学後、金城学院大学に入学しました。ミッション系大学で多くのクリスチャンに出会えると期待していましたが実際には少なく、少し孤独を感じることもありました。

そんな中、KKG（キリスト者学生会）というクリスチャンの大学生の集まりで同じ信仰を持ち、分かち合える仲間に出会いました。ここでは信仰の熱さや、クリスチャンだからこそ抱える悩みを分かち合うことができ「自分だけじゃなかったんだ」と思えることができました。

そのような仲間との出会いも、私を教会へと引き戻してくれる大きな力となりました。

教会とは、建物だけではなく、信仰を分かち合う「つながり」でもあると実感するようになったのです。

教会とは、見える建物だけではなく、見えない祈り、見えない支え、見えないつながりの中にこそある。

私にとって教会は、キャンプで出会った仲間、KKGで祈り合った友人、そして私を送り出してくれた教会の祈りの中にも、確かに存在しています。

見えない祈りが、私の歩みを支えてくれました。

そして今、私はその祈りを受け継ぎ、誰かの「居場所」となれるように歩んでいきたいと思っています。

秋の伝道週間（ミッション・ウィーク）
2025年10月30日(木) 昼の礼拝

「命より大切なもの」

東京神学大学神学生 ご とう な な 後藤奈々

「命は大切だ。命を大切に。そんなこと、何千何万回言われるより、「あなたが大切だ」誰かがそう言ってくれたら、それだけで生きていける。」

数十年前、こんなキャッチコピーがTVで流れていました。「あなたが大切だ」

皆さんはそんな言葉を言われたことがあるでしょうか。

私は現在、東京神学大学で牧師になる為に勉強をしています。それ以前は幼稚園教諭として、保育の現場で子供たちに命の大切さを教え続けてきました。

しかし、私達はふっと理由もなく死にたくなる時があるのです。自分が価値のない存在に思える時があるのです。家族や友達に囲まれていても、孤独を感じ、生きる喜びを失う瞬間があるのです。

不思議なことに、聖書は「命より大事なものがある」と教えています。イエス・キリストは神なるお方です。その神がご自分の命よりも大切にされたものがあるのです。十字架でご自分の命を捨ててでも大切なもの。貴いもの。それが「私」という存在だったのです。

人間は、誰もが自分の命に固執し、自分の命を優先し、自分のことばかりに目を向けて生きています。だから人を妬み、人を傷つけます。聖書はそれも罪だと教えています。この罪があるから人間は幸せに生きられません。しかし、主イエスはそのような私達を赦すために、ご自分の命を十字架で犠牲にされました。それは、人間が神と回復され、他者を愛し、本当に幸せで価値ある生き方を与える為でした。

私の友人は出産直後に亡くなりました。愛する我が子はこの世に送り出す為に、命を犠牲にしたのです。この母の愛によってその子は今、生きています。この子は命と引き換えに自分を産んでくれた母の分まで精一杯、人生を生きるはずでした。

同じように、主イエスの十字架の愛を知った人は、自分の貴さを知り、今度は自分の為でなく、他者を愛し、神の愛を伝える人へと変えられます。それは、どんな命にも変えられない、最高に幸せな価値ある生き方なのです。

礼 拝

イースター記念礼拝

- 4月6日(月) 吉松 純 大学宗教主事
- 7日(火) 落合建仁 宗教主事
- 8日(水) 小室尚子 理事長・学院長・大学長
- 9日(木) 松谷暉介 宗教主事
- 10日(金) 洛雲海 宗教総主事
- 13日(月) 吉松 純 大学宗教主事
- 13日(月) 落合建仁 宗教主事
- 14日(火) 洛雲海 宗教総主事
- 15日(水) 小室尚子 理事長・学院長・大学長
- 16日(木) 松谷暉介 宗教主事
- 17日(金) 野田康弘 薬学部教授
- 20日(月) 小林 光 日本基督教団熱田教会牧師
- 20日(月) 吉松 純 大学宗教主事
- 21日(火) 八東 清 日本基督教団御器所教会牧師
- 22日(水) 辻 順子 日本基督教団鳴海教会牧師
- 23日(木) 原田 望 大学運営推進部担当部長
- 24日(金) 落合建仁 宗教主事
- 27日(月) 佐味健志 ハンガーゼロ巡回牧師
- 27日(月) 洛雲海 宗教総主事
- 28日(火) 田口博之 日本基督教団名古屋教会牧師
- 30日(木) 和田芳子 日本基督教団東海教会牧師
- 5月1日(金) 落合建仁 宗教主事
- 7日(木) 小室尚子 理事長・学院長・大学長
- 8日(金) 落合建仁 宗教主事
- 11日(月) 三輪地塩 同志社大学神学部准教授
- 11日(月) 山田詩郎 日本基督教団名古屋北教会牧師
- 12日(火) 吉松 純 大学宗教主事
- 13日(水) 稲田勝之 日本基督教団中京教会牧師
- 14日(木) 松谷暉介 宗教主事

15日(金) 洛雲海 宗教総主事

春の伝道週間 (ミッション・ウィーク)

- 18日(月) 小室尚子 理事長・学院長・大学長
- 18日(月) 吉松 純 大学宗教主事
- 19日(火) 林 小夜子 みどり野会会長
- 20日(水) 児玉 芽 幼稚園長
- 21日(木) 長屋頼子 中学校・高等学校校長
- 22日(金) 洛雲海 宗教総主事

ペンテコステ記念週間

- 25日(月) 松谷暉介 宗教主事
- 25日(月) 朴 相俊 デザイン工学部教授
- 26日(火) 洛雲海 宗教総主事
- 27日(水) CARTER,Michael 日本長老教会名古屋セントラル教会牧師
- 28日(木) 吉松 純 大学宗教主事
- 29日(金) 落合建仁 宗教主事

- 6月1日(月) 八東 清 日本基督教団御器所教会牧師
- 1日(月) 小坂橋秀行 日本フリーメソジスト教団名古屋キリスト教会牧師
- 2日(火) 松谷暉介 宗教主事
- 3日(水) 南 尚浩 愛隣教会牧師
- 4日(木) 山田麻衣子 日本基督教団名古屋北教会牧師
- 5日(金) 落合建仁 宗教主事
- 8日(月) 小室尚子 理事長・学院長・大学長
- 8日(月) 吉松 純 大学宗教主事
- 9日(火) 安達正樹 日本基督教団名古屋新生教会牧師
- 10日(水) 原崎周平 教育研究支援部長
- 11日(木) 松谷暉介 宗教主事
- 12日(金) 洛雲海 宗教総主事
- 15日(月) 置田牧人 大学運営推進部長
- 15日(月) 落合建仁 宗教主事
- 16日(火) 吉松 純 大学宗教主事
- 17日(水) 辻 順子 日本基督教団鳴海教会牧師
- 18日(木) 栗原武士 日本基督教団刈谷教会牧師

19日(金) 洛雲海 宗教総主事

- 22日(月) 上野 顕子 人間科学部教授
- 22日(月) 松谷暉介 宗教主事
- 23日(火) 田口博之 日本基督教団名古屋教会牧師
- 24日(水) 小室尚子 理事長・学院長・大学長
- 25日(木) 日比野直子 人間科学部准教授
- 26日(金) 狩野進之佑 日本基督教団愛知守山教会牧師
- 29日(月) 稲田勝之 日本基督教団中京教会牧師
- 29日(月) 山田詩郎 日本基督教団名古屋北教会牧師
- 30日(火) 小室尚子 理事長・学院長・大学長
- 7月1日(水) 洛雲海 宗教総主事
- 2日(木) 松谷暉介 宗教主事
- 3日(金) 落合建仁 宗教主事
- 6日(月) 吉松 純 大学宗教主事
- 6日(月) 南 尚浩 愛隣教会牧師
- 7日(火) 和田芳子 日本基督教団東海教会牧師
- 8日(水) 置田牧人 大学運営推進部長
- 9日(木) 小坂橋秀行 日本フリーメソジスト教団名古屋キリスト教会牧師
- 10日(金) 洛雲海 宗教総主事
- 13日(月) 小室尚子 理事長・学院長・大学長
- 13日(月) 松谷暉介 宗教主事
- 14日(火) 山田麻衣子 日本基督教団名古屋北教会牧師
- 15日(水) 狩野進之佑 日本基督教団愛知守山教会牧師
- 17日(金) 栗原武士 日本基督教団刈谷教会牧師
- 20日(月) 安達正樹 日本基督教団名古屋新生教会牧師
- 20日(月) 小室尚子 理事長・学院長・大学長
- 21日(火) 吉松 純 大学宗教主事
- 22日(水) 落合建仁 宗教主事
- 23日(木) 松谷暉介 宗教主事
- 24日(金) 洛雲海 宗教総主事

(赤字は昼の礼拝です)

朝の礼拝

日時 月～金曜日 8時45分～9時00分
場所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂

昼の礼拝

日時 月曜日 13時00分～13時15分
(伝道週間は13時25分迄)
場所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂

祈祷会

日時 水曜日 8時10分～8時25分
場所 キリスト教センターラウンジ

キリスト教の時間

日時 6月5日(金)
場所 アニー・ランドルフ記念講堂
講師 永原郁子 (小さないのちのドア 代表理事)

大学教員キリスト教セミナー

日時 8月6日(木) 10時00分～15時00分
場所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂他
講師 加藤喜之 (立教大学教授)

夏のバイブルキャンプ

日時 8月28日(金)～29日(土)
場所 清泉寮
講師 田中従子 (東京神学大学非常勤講師)

オルガニスト養成講座

朝と昼の礼拝で奏楽を担当するオルガニストを養成する講座です。詳細はキリスト教センター HPをご覧ください。5月29日(金)申込締切。

スマイス奨学生

本学における福音主義キリスト教に基づく、信仰の奨励とキリスト教活動の推進を図ることが目的です。詳細はキリスト教センターHPをご覧ください。5月7日(木)申請締切。

クリスマス献金報告

献金総額 (幼稚園・中学校・高等学校・大学) 568,011円
皆様のあたたかいお志とご協力に深くお礼申し上げます。

【送金先】

能登半島災害被災者のため (日本基督教団を通して)
ウクライナの人道支援のため (日本ウクライナ文化協会を通して)
他18団体

金城学院大学キリスト教センター

Tel. 052-798-0180

Email. ccoffice@kinjo-u.ac.jp

※各行事は諸事情により変更となる場合がございます